

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

# 経営者への活きた言葉

税理士法人 優和

TEL 03-3455-6666

FAX 03-3455-7777

## 経営者への活きた言葉

### AIの出現で再び産業資本主義の悪夢 岩井克人（東京大学名誉教授）

1. 私の資本主義論とは、商人資本主義、産業資本主義、ポスト産業資本主義と移り変わる中で、差異が利潤を生む基本原理は変わらないというものだ。私はこのポスト産業資本主義に希望を抱いた。人間の時代が戻ってくるのではないかと。知的な創造性を持った人間しか差異を生み出すことはできないからだ。
2. 産業資本主義ではお金を持つものが圧倒的に優位であった。お金さえあれば工場を建てられる。自分で建てなくても、工場の株式を買えばいい。だから株主主権が唱えられた。ところがポスト産業資本主義では差異を生み出す能力や教育のある人間が優位性を回復してくれると私は考えた。
3. お金それ自体は力を持たなくなり、人間が力を取り戻すと楽観していたところに、NOを突きつけたのが生成AIの登場だ。生成AIが差異をつくりだせるからだ。製薬やゲーム設計、定理の証明まで始めている。そしてAIはコンピューターモデル。モノだから、お金で買ってしまう。産業資本主義の時以上に、お金を投入すれば勝つ時代になったかもしれない。

（参考：「週刊東洋経済」2025年12月20日号）

## 経営者のための危機管理

### スマホに依存 自分を律することができなくなる

1. 2025年に大きな注目を浴びた企業の不祥事には共通点がある。それはごく普通の一社員が抱えるストレスや孤立、依存傾向といった、精神面での弱さが企業の信用を揺るがした点だ。フジテレビのオンラインカジノや三菱UFJ銀行の貸金庫窃盗、そして日本航空のパイロット飲酒問題等だ。
2. これらの不祥事の背景には、飲酒問題やギャンブル、金銭トラブルなど「個人の抱える悩み」があった。これらがいつしか、不正や不祥事を引き起こす動機の一つになっていた。自分を律することができなくなってしまった社員は、企業が考慮すべき大きなリスクの一つになったと言えるだろう。
3. 従業員の心が揺らいでしまうのは、経済的利得だけではない。享楽や快樂にとらわれ、仕事や家事がおろそかになり、結果として企業活動に損害を与えるケースもある。現代生活に欠かせないスマホはその代表例だ。

（参考：「日経ビジネス」2025年12月22日号）

## 海外事業

### AIが3～6年で人間社会に劇的な変化をもたらす

1. 2026年も人工知能（AI）から目が離せない。その意味でクローズアップされるのが「サンフランシスコ・コンセンサス」だ。サンフランシスコ・コンセンサスとは、米シリコンバレーを中心としたテック業界エリートがAIの未来について共有しているビジョンだ。それに従えば、AIは今後3～6年で人間社会に劇的な変化をもたらす。
2. 提唱者は米グーグルの元最高経営責任者（CEO）のエリック・シュミット氏。変化はホッケースティック曲線のように急激な右肩上がりだ。次の5年間は次の1000年間で最も重要な5年間になる、このように予測している。鍵を握るのは「再帰的自己改善」だ。AIが人間の介入なしに自己改良を繰り返し、汎用人工知能へ進化するということだ。

（参考：「週刊ダイヤモンド」2026年1月24日・31日号）

## 古典に学ぶ

### 何にもない幸せ

1. 幸せの定義を、「〇〇があること」で考えていると、新しい何かを手に入れるために、どんどん欲ばりになっていく。持っているものを守ろうと、すがりついてしまう。
2. 心配がない、迷いがない、つらくない、怒っていない・・・。「〇〇がないこと」は、本当に幸せなこと。何にもない一日は、幸せな日。

（参考：加藤朝胤監修「超訳 般若心経」：リベラル文庫）